

<新規陽性者の発生動向>

(1) 大阪府の発生動向

- 2週間で7日間毎の新規陽性者数は約3.4倍増加し、**第三波を大きく上回るスピードで感染が急拡大**。一日平均は約312名。
新規陽性者に占める20・30代新規陽性者数の割合が6割弱まで急増し、60代以上も増加し続けていることから、今後の急激な感染拡大と、その後の医療提供体制のひっ迫の可能性が高まっている。
- **3月29日に、陽性率を除く分科会指標ステージⅢの基準を超え、まん延防止等重点措置適用の主な指標**（病床占有率、直近人口10万人あたり新規陽性者数、前週増加比）を満たしている。
感染規模については、緊急事態措置適用の目安の一つとなるステージⅣの基準を31日に超過する見込み。

(2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- 週・人口10万人あたり新規陽性者数も、市内外居住者ともに増加しており、**市内は分科会指標ステージⅣの基準25人以上を大きく上回り、市外もステージⅢの基準15人を上回っている。**
- **年代別では、10代から30代までの若者が急増。その他年代も市内外ともに増加。**
- **感染経路不明者の割合については、市内居住者が6割強と依然高く、市外も5割を超過。市内外ともに市中感染が拡大している。**

(3) 夜の街関連等の発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者も増加し、特に居酒屋・飲食店が増加。また、滞在エリアとしては、市内外ともに増加。特に市外で急増している。**
- **旅行参加者や送別会・卒業式等の年中行事参加のエピソードを持つ陽性者が多数発生している。**

(4) 変異株の状況

- **変異株PCR検査陽性率は36.0%**（変異株PCR検査件数817件、変異株PCR陽性者数294人）であり、変異株陽性者の濃厚接触者や接触可能性のある人等を除けば、**11.3%**（変異株PCR検査件数584件、変異株PCR陽性者数66人）と、**3月20日時点の5.3%から増加。**

※別途、国が実施した検査で⑤人が陽性判明

なお、**直近1週間の変異株PCR陽性判明率は6.7%**（新規陽性者1,576人、変異株PCR陽性者数105人）となっている。

感染状況と医療提供体制の状況について

<医療提供体制の状況>

- **重症病床使用率が4割を超過し、重症病床、軽症中等症病床、宿泊療養施設部屋数運用率いずれも5割程度となり、医療提供体制に負荷が大きくかかり始めている。**
現在、1日10名程度の重症者が出ていることから、**重症病床使用率は遅くとも4月中旬から下旬に大阪モデルの非常事態基準70%を超過する恐れ**がある。

今後の対応方針について

- 年末年始の感染急拡大をさらに大きく上回る速度で感染が急拡大し、新規陽性者に占める若者が6割弱であることから、他の年代への感染が広がり、当面はさらに感染拡大がすすむものと考えられる。
60代以上の新規陽性者数が増加しており、さらなる感染拡大によって、医療提供体制が早晚、ひっ迫する恐れが強く、4月中に大阪モデルの非常事態（医療非常事態宣言）となる可能性が高まっている。
分科会指標は、既にまん延防止等重点措置適用の目安となるステージⅢの基準を超え（陽性率を除く）ている状況。
これらの状況を踏まえ、これまで以上に強い措置の検討により、医療提供体制のひっ迫を防ぐための取組みが必要。
- なお、当面、医療提供体制への大きな負荷が想定されることから、患者受入医療機関に対し、「フェーズ4 - 2」への移行を3月31日付で要請しており、**緊急事態に備えた医療提供体制の確保に努める。**